

平成26年度事業報告

上野丘さつき会 本部

26年度は法人内に重大な事件が2件も相次いで起こりました。

上野丘更生寮では利用者の死亡事故が起こり、法人内懲罰委員会の開催、神戸市による実地指導及び改善通知を受けました。

上野丘学園では利用者虐待事件が起こり、法人内懲罰委員会の開催、神戸市による実地調査及び改善勧告を受けました。

これを受けて上野丘更生寮では法人内懲罰委員会による事故防止のための提案書に沿って、事業所内環境の見直しと整備を進めているところです。取り分け、情報共有と記録の重要性を再認識し、朝礼と勤務交代時の口頭による引き継ぎとケース記録の整備、特に利用者の健康状態についてきちんと引き継ぐことに取り組みました。加えて、課長による職場内研修を毎月実施し、若手職員の育成に力を注いでいます。

上記に関連して、虐待防止委員会活動も更に活発に活動し、虐待防止に向けた全職員対象の職場内研修を2回実施しました。職員の意識改革の状況は確実に改善の方向へ進んでいます。

神戸市の26年度監査で指導された労働安全衛生法に係る安全衛生委員会の設置については、職員の中から資格取得の衛生管理者を選出し、また、産業医と嘱託契約を交わし、労働基準監督署に選任報告を届出した後、26年11月から衛生管理者と産業医を配置した委員会活動を開始したところです。

以来、安全衛生委員による週1回の職場内巡視と問題箇所の是正に取り組んでいます。

27年度から産業医の意見記載の定期健康診断書の労働基準監督署への報告を開始します。

26年4月に神戸市西区桜が丘にグループホームのホームさかえ（定員4名）を開設しました。5月から神戸市西区にて地域生活を始めています。

上野丘更生寮の居住棟建設の前準備として、以下の工事等の事業を実施しました。

放流水質改善の浄化槽増設工事は26年4月完了しました。工事費用は4,104,000円でした。

一般棟2階と管理棟の耐震補強工事は26年7月完了しました。工事費用は12,744,000円、工事監理業務費用534,600円でした。この内、防災整備事業補助金は9,806,000円でした。

同時に一般棟2階食堂の内装修繕工事を施工しました。工事費用は2,808,000円でした。

耐震補強工事中に一般棟厨房床防水工事を施工しました。工事費用は3,618,000円でした。

続いて、施設内鉄製手摺やベランダ等のペンキ塗装補修工事を施工しました。工事費用は3,132,000円でした。

駐車場用地の確保とその整備のために児童棟前池の一部埋立てと舗装工事を施工しました。工事費用は1,740,960円でした。

同じく、駐車場用地確保のため児童棟裏ビニルハウス1棟と仮設ハウス1棟を撤去しました。

一般棟1階スレート屋根葺き替え工事を26年度末に計画し、27年度事業に引き継ぎます。

上野丘更生寮の就労継続B型従たる事業所の「アグリスト KOBE」は農でデザインする福祉のまち作りネット部会「きたベジねっと」と連携し、ビニールハウス（幅7.5m×長さ60m×3棟）を淡河町行原地区に建設しました。27年1月よりハウス栽培を主とした軟弱野菜生産に取り組んでいます。

1. 生活介護・施設入所支援（18歳以上の入所者に対する支援）

- ・平成26年3月に高等支援学校を卒業したA君が4月に一般就労が決定し、家庭引き取りされ退所となる。
- ・平成26年4月より、18歳以上（生活介護）の利用者が8名（B君・C君・D君・E君・F君・G君・H君・I君）が在籍しており、そのうちB君・C君・D君・E君（4名）は、職員1名を配置し、上野丘更生寮（生活介護）と共に日中活動を行い、日中の訓練の場と夜間の生活の場の区別を意識付ける訓練を引き続き行いました。
また、F君・G君・H君・I君（4名）は職員1名を配置し、年間を通して道の駅淡河の清掃作業（男女トイレ・駐車場のゴミ拾い等）とリサイクル作業（空き缶等）を行い、その他、農耕作業・施設整備等を行い、作業継続できるよう支援しました。
道の駅淡河の清掃作業で得た作業収入を各利用者に作業工賃（年間49050円）として配分し還元しました。
- ・措置停止中のJ君は、平成26年12月の誕生日で20歳になり、措置解除となる。それに伴い県外の企業に実習中だった為退所となりました。
また、上記のI君は平成27年3月に上野丘更生寮に移行しました。

2. 知的障害時入所支援事業（18歳以下の入所者に対する支援）

- ・平成27年3月にKさん・Lさん・Mさん・Nさん（4名）・O君（1名）が高等部を卒業し、そのうち、Kさんは一般就労（株式会社マルハチ 三田店）に自力通勤している。
またLさん・Mさんは夜間を上野丘学園の施設入所支援を利用し、日中を就労継続B型の事業所（社会福祉法人“風”三田わくわく村 [Lさん]）（特定非営利法人“ひやしんす”ほっとステーションぽてと[Mさん]）にそれぞれ自力通勤している。
その他、Nさん・O君は上野丘学園の生活介護・施設入所支援事業で支援を行う。
- ・新たな入所者については、各関係機関とも連携を図り、平成26年4月にP君（小3）、9月にQ君（高2）、12月にR君（小3）、平成27年2月にS君（小6）、Tさん（小1）、3月にUさん（小3）が入所になり、定員30名に対して、現員32名で入所利用者2名増になりました。

3. 職員配置について

- ・平成26年4月に保育士1名を採用し、10月に男子パート職員が退職しました。保育士または児童指導員を採用予定であり、学校関係、福祉人材センター、ハローワーク等にも募集をしましたが人材不足で新たな人材の確保はできなかった。
平成27年5月に児童指導員（女子）1名採用予定。

4. 短期入所・日中一時支援事業

- ・短期入所事業については引き続き定員4名で実施しました。
- ・障害地域支援センター・特別支援学校・こども家庭センター等各関係機関との情報を共有し、広報活動を行い、利用延日数694日で12名の契約のうち新規契約者5名増員となりました。又、日中一時支援も上記と同様に広報活動を行いました利用延日数8日で2名契約のうち新規契約者が1名でありました。

5・施設整備について

- ・厨房機器の更新 において業務用食器洗浄機を補助事業（やまぶき財団）で購入し事業完了しました。

6. その他

・職員の研修会

全国知的障害者福祉関係職員研究大会・青森大会

近畿地区知的障害関係施設職員研修会

神戸市知的障害者施設連盟職員部会研修会

感染症対策特別講座

障がい福祉施設（新任）職員研修

福祉施設新任職員共通研修

法令厳守・職業倫理研修

上野丘更生寮、生活介護職員と共に大阪府（桃花塾）施設見学

市民救命士講習会

上記の研修に各1名参加しました。

・虐待防止法に伴う、全職員対象の施設内研修を実施しました。

平成26年10月8日 心理的虐待の事案を基にグループワーク 1班

平成26年10月16日 心理的虐待の事案を基にグループワーク 2班

平成26年10月28日 心理的虐待の事案を基にグループワーク 3班

平成27年1月15日 社会福祉専門職としての人間観と障害を持つ人の人権についての講習会

平成27年1月21日 社会福祉専門職としての人間観と障害を持つ人の人権についての講習会

・新人職員を対象に防災教育を行いました。

5月22日、安藤防災（消防設備会社）を迎えて、消火器による消火訓練・重度棟廊下設置の消火ホースを使用しての放水訓練、その後防火管理者による消防設備の説明会を実施。

・クラブ活動として、エイサー隊・フットベースボール・綱引き等の活動を行い、また、他施設の行事及び、地域の行事等に積極的に参加し、入所者の視野を広げました。

・エイサー隊活動状況

4月 7日(日) 第10回藤原台さくらまつり 主催：藤原台ふれあいまちづくり協議会

7月26日(土) 上津台夏祭り 主催：上津台自治会協議会

8月 7日(木) みのたに園夏祭り 主催：社会福祉法人陽気会 みのたに園

8月17日(日) 第10回うらら夏祭り 主催：介護老人保健施設 うらら

10月 4日(土) 秋祭り 主催：有料老人ホーム やさしい手広野

10月25日(土) ゆうわ福祉会バザー 主催：社会福祉法人ゆうわ福祉会

1月14日(水) リポート中山コンサート 主催：ひょうごかぞくねっと

3月 1日(日) みんなでわいわいチャリティーコンサート 主催：北神区民センター

3月21日(土) 第4回北区青少年フェスタ 主催：北区青少年育成協議会

3月22日(日) ふれあいフェスティバル 主催：しあわせの村温泉健康センター

平成26年度事業報告
上野丘更生寮 介護給付事業（生活介護、施設入所支援）

平成25年度末から始まった耐震工事は6月に無事に終了し、快適に過ごすことができています。生活場所が変わった利用者も環境に慣れ、落ち着いて生活されています。

屋内で作業を行っている重度高齢の利用者については日課の変化に対応しにくい方が多く在籍していることもあり、日中の取り組みに関してはこれまでと大きな変化はありませんでしたが、それぞれの活動場所において対象となる利用者に合わせて内容の支援を実施してきました。

屋内で活動する利用者は、歩行訓練や機能訓練、花壇整備や淡河町公園のトイレ掃除等を曜日を決めて行いました。屋外で作業をする利用者は、個々の特性に合わせて農耕作業やリサイクル作業を行いました。作業に適応しにくくなった時は活動場所を変更して継続した参加を促しました。

また、日常生活を送るうえで必要な介助を行い清潔に過ごせるよう取り組みました。年に一度実施している旅行についても各グループでの計画とし、利用者の動きにあった内容で実施しました。

年に2回実施している健康診断は、これまでと違い健診車に施設まで来てもらって実施しました。一般の医療機関を受診することが難しい利用者も慣れた環境で受けることができスムーズに対応することが出来ました。今後も健診車を依頼し、安心して検査を受けられるよう配慮します。

8月に起きた事故を受け、情報共有と状況把握の為9月より朝礼を再開しました。また、気付いたことはそのままにせず、その都度相談するよう取り組んでいます。

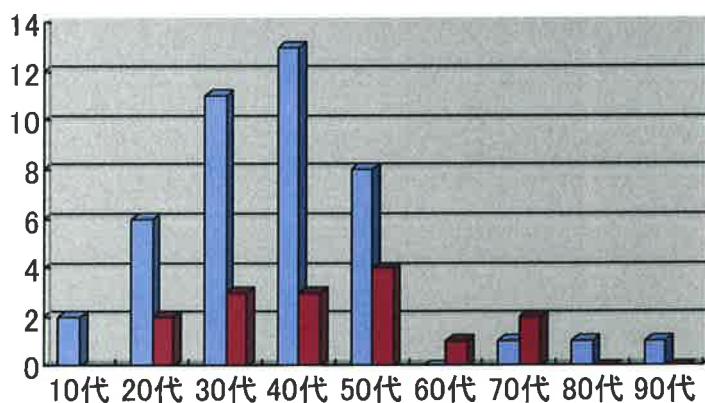
平成26年度利用登録状況（措置者を除く）（入所定員60名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月初日利用者数	61	63	62	62	61	63	63	63	63	62	62	62
月中中終了者数	1	1	0	1	1	2	0	1	1	0	0	0
月中中開始者数	3	0	0	0	3	2	0	1	0	0	0	1
月末日利用者数	63	62	62	61	63	63	63	63	62	62	62	63

（平成27年4月に1名入所）

入所者年齢グラフ

27年3月末現在



■ 施設入所男性 ■ 施設入所女性

40～50代以上の利用者は屋内での活動を中心に行い、30～40代の利用者は農耕班やリサイクル班で活動しています。個々の特性やできることに合わせ、活動場所の変更も検討しています。農耕班は収支を計算し工賃の支給を行いました。リサイクル班と屋内で活動する利用者には工賃支給はせず、嗜好品を購入して提供させていただきました。

職員の資質向上の為、施設外で実施される研修に参加しました。また、数名ずつ他の事業所へ見学に行く計画を立てていましたが、調整ができず数回の実施となってしまいました。27年度は支援の向上を目的に計画通り施設外研修を実施できるよう取り組んでいきたいと考えています。

平成26年度事業報告

上野丘更生寮

訓練等給付事業（就労移行・生活訓練・就労継続支援A型・就労継続支援B型）

短期入所・共同生活援助

これまで就労移行、生活訓練、就労継続支援A型、就労継続支援B型の訓練等給付事業は一体的に事業を行い、働く事を基本とした日中活動を通して社会生活への自立や経済的自立を目標とした地域生活移行への施設支援を総合的に行ってきました。

平成26年度の地域生活への移行実績は施設入所支援と短期入所から在宅復帰に2人、グループホームに4人、他法人のグループホームに3人、アパート等での独り暮らしに3人。グループホームから在宅復帰に1人、アパート等の独り暮らしに1人。合わせて合計14人の利用者が地域生活に移行しました。14人の利用者の内10人は、訓練等サービスを継続利用して日中活動に取り組んでいます。また、地域移行による施設入所支援の退所に伴い10人の新規利用者の受け入れ、施設支援を開始しました。

社会的問題を持つ、行き場のない人達に施設支援を行ってきましたが、それに加え近年は罪を犯した障害者にも支援を行っています。社会のセーフティーネットから漏れ、触法行為を行った障害のある人達に施設支援を行う事によって、自立と更生を果たし社会復帰することを目的としております。平成26年度は、矯正施設からの受け入れは行っておりません。

平成26年度の利用者のサービスの利用状況は長期の無断外泊や通所拒否等による通所率の低下と地域移行等による退所等で利用減となり、給付額が就労継続支援B型の給付を主として減収しています。平成26年度の訓練等給付4事業合計で72,139,767円、前年度の88,179,023円に対し、給付額にして16,039,256円、前年度比約18.2%の減収となっています。

平成26年度の日中活動の作業収支は総収入38,704,798円、前年度37,549,573円に対して前年度比約3%、収入額にして1,155,225円の増収となっています。増収額は僅かではありますが、従たる事業所そよかぜを欠いたことで前年度作業収入分4,708,149円が減収しているので、従前の活動形態による作業収入は前年度比約15.6%の伸びがあります。

総支出（工賃を含む）37,984,133円で収入に対する支出比率（工賃を含む）約98%、前年度比約0.6%の支出減となっています。

利用者工賃は平成25年度利用者64人に対して工賃総支払額23,127,350円、平成26年度は支給対象者59.3人に対して工賃総支払額21,264,288円、平均工賃月額29,865円で総支出に対する工賃の割合は約55%となっています。

日中活動内容ですが、施設外就労グループは社会適応を目的として有馬ロイヤルGCとジャパンメモリアルGC、ロータリーGCの3カ所のゴルフ場に加え、フルーツ・フラワーパークと西区の流通センター内コープ自然派で継続的に行いました。

農耕作業グループは近隣の不耕作農地の地権者から作業委託を受けて水稲作付面積を拡大しています。加えて、アグリストグループを新設し、「農でデザインする福祉のまちづくりネットワーク部会」と連携してビニールハウスを設置する等、野菜栽培に取り組みました。

平成 26 年度の施設外就労作業収入は、22,465,830 円、前年度の収入 20,918,417 円から金額にして 1,547,413 円、前年度対比約 7.4%の増収となっています。

平成 26 年度の農耕作業収入、13,729,141 円、前年度の収入 8,263,029 円から金額にして 5,466,112 円、前年度対比約 66%の増収となっています。

本体施設の厨房委託業者変更に伴い厨房の自営化と施設外就労利用者等の昼食弁当事業に於いて利用者の働き場所の拡大を図りました。

利用者親睦旅行では、農耕グループが 10 月に 2 泊 3 日で木曾福島、下條温泉に施設外就労グループは 1 月に岩手、秋田、宮城方面へ 3 泊 4 日の旅行を実施しました。5 月の陸上大会や 2 月の綱引き大会などに出場してスポーツ等の活動にも積極的に取り組みました。

平成 24 年 10 月の虐待防止法の施行に伴って虐待防止委員会を発足し、平成 26 年度に於いても毎月定例委員会を行い虐待行為の防止に向けて対策や方法について協議を行いました。

平成 26 年度に於いて法人内での虐待認定が 1 件あり、神戸市より勧告を受け、虐待防止委員会の第 3 者委員への定期報告、3 か月毎のチェックリストによる虐待発見、施設内研修の開催と施設外研修への参加等改善に向けて取り組みました。

また、8 月の利用者の傷害致死事故について法人役員の改善指導を受けて、連絡と報告の徹底、職員の危機管理と意識の向上、支援技術の習得等を目的とした施設内研修を実施する等改善に向けて取り組んでいます。

(事業別報告)

就労継続 A 型事業

平成 21 年度より定員 10 人で事業を開始して 5 年が経過しております。工賃については、10 月の最低賃金の改正に伴って時給 776 円に変更して給与支給を行っています。

平成 26 年度当初は、前年度と同様に合計 8 名の雇用保障を行い、5 月より新たに 1 人がサービス利用開始し、合計 9 人の利用となりましたが 7 月中旬より行方不明により 1 人、2 月下旬には、退所意向により 1 人、計 2 人の利用者が退所しましたので、年度終了時には 7 人となっています。

2 か所のゴルフ場を中心に施設外就労を展開して給与を支給しました。利用者の生活場所は、短期入所（上野丘更生寮）1 人、グループホーム利用者 3 人、アパートでの独り暮らし 3 人、いずれの利用者も生活費等に保護者等からの経済援助がありません。経済基盤の確保が継続的に必要であるために経済的自立を目的とした支援を行っています。

就労継続 B 型事業

本体施設 25 人とそよかぜ 10 人の合計 35 人定員で平成 25 年度末には、37 人の実利用者数となっていました。そよかぜが平成 25 年度をもち従たる事業所を解消して独立しました。それに伴い、そよかぜの利用者 11 人が減員になり、平成 26 年度に於いて実利用者数 25 人での事業実施となりました。このことが訓練等給付の減収に大きな影響を及ぼしています。

その後、サービス変更による 5 人と新規利用 2 人にサービス開始、サービス変更の 1 人を含む 5 人の退所がありました。年度終了時には、27 人の実利用者となっています。

利用者の生活場所は、入所施設支援で経過措置 5 人と短期入所との併給で 2 人、それ以外は入所からグループホーム等の地域へ移行した人達や在宅で暮らす利用者が中心となっています。

平成 26 年度に於いても日中活動は農耕作業を中心に行いましたが、加齢等の理由により一般就労が難しい傾向があります。地域で生活している状況を考えると作業工賃による収入の確保が必要です。加えて、工賃額の引き上げが出来ていないので目標工賃が達成できておらず、成功報酬となっている加算等が次年度は外れて給付費が減収します。2 つのことから工賃額の引き上げが課題となっています。

農耕作業収入は増収となりましたが、前述の工賃額の向上に向けた経費等の支出、作業の効率等の更なる改善が急務となっています。

就労移行事業

現在の展開として平成 23 年度に 1 名の就職がありました。その後の就職者がありませんでした。就労希望の利用者に 1 月からサービスの変更による就労支援を開始し、トライアル雇用まで漕ぎ着けましたが継続雇用されず不採用となりました。結果として平成 26 年度に於いても就職者はありませんでした。訓練等給付事業を一体的に行っている事と就労継続 A 型事業での雇用保障を進めている事に起因してサービスの利用率や就職率に影響していると思われます。平成 27 年 3 月現在で 10 人の定員に対して 2 人の実利用者数となっています。

生活訓練事業

現在 10 名定員の事業ですがその必要性から利用率が高く、これまで定員を越えた定員緩和による実利用者数でサービス提供を行ってきました。定められた有期限内（24 か月～36 か月）では準備が整わず地域生活に移行出来ないため、施設入所を継続させる必要があり、他の訓練等給付事業にサービスを変更したので平成 26 年 3 月実利用者数 4 人から新規利用で 3 人、サービス変更により利用が 1 人の合計 4 人にサービスを開始、サービス変更者 2 人があり平成 26 年度末で 5 人と前年度に続いて減員しています。

日中活動は、社会適応を目的として施設外就労のコープ自然派を中心に行いました。施設から地域への移行を目的として、調理実習や掃除、整理整頓等の方法の習得に向けた訓練や外出の機会を使い、施設以外の場所において金銭の使い方や交通機関の使い方、ルールやマナーに対する意識の向上等、社会適応訓練の実施をしました。平成 26 年度はアパートでの一人暮らしに 2 人、グループホームに 2 人が地域生活へ移行しました。

短期入所事業

平成 26 年度もこれまでと同様に 16 人定員で事業を実施しました。延べ利用者数 5595 人、一日平均利用者数 15.3 人、稼働率 96%となっています。

ほぼ満床で稼働し、施設入所待機のロングステイが常態化しています。アパートでの独り暮らしに 1 名が移行退所、新規で男性 2 人が利用開始しています。また、短期間の施設体験やレスパイトとして短期入所を利用されるケースが増え、3 人の体験短期入所と緊急短期入所 3 人がありました。

平成 26 年度も高稼働率を維持出来ているものの給付収入 30,351,649 円、前年度給付収入 40,851,550 円と前年度対比約 9%、収入額にして 3,499,901 円の減収となっています。

共同生活援助事業

平成 22 年度のホームよしおの開設以降、ホームの設置計画を複数立てましたが、物件がホームの設置要件を満たさず設置出来ていませんでした。平成 26 年 5 月に計画通り神戸市営住宅（栄団地）にてホームさかえを開設しました。なお、新ホームには入所施設支援から男性 2 人と女性 1 人、ホーム間移動での女性 1 人の計 4 人の利用者が入居してサービス開始しています。現在は、7 か所のホームで 33 人定員の事業を行っています。

ホームありのを利用していた女性利用者 1 人がホームを退去して出身区で独り暮らしを開始しました。地域移行に向けた関係機関の調整や移行支援を行っています。

7 月中旬よりホーム南口の男性利用者 1 名が無断外出、その後行方が不明、有馬署に保護願いを提出、3 月に福祉乗車券の乗車履歴から神戸市営地下鉄の防犯カメラにて本人を確認し現在も捜索を継続的に行っています。

ホームさつきの男性利用者 1 人がホーム退去の意向があり、これを承諾して在宅復帰をしました。

また、グループホームの利用者同士の関係性や日中活動や休日の課題等が多くあり、其々に本体施設と連携しながら対処しています。

平成 26 年度の給付収入 53, 203, 457 円、前年度給付額 40, 705, 142 円とホーム新設で前年度対比約 30 パーセントの給付額の伸びが見られています。